

川柳発祥の日（8月25日）を祝う会

慶紀逸翁260年 記念法要・公募句会

— 附句の独立鑑賞から川柳への道を拓いた恩人を偲び顕彰する —

日時 令和4年8月23日（火）13時開会

中継 台東区谷中・龍泉寺（慶紀逸翁菩提寺）

参加費 2000円（投句6題12句+オンライン中継+発表誌）

法要 龍泉寺 土田恵敬和尚

奉納（イメージ吟 投句募集）

音楽法要 龍笛・筆箒・笙による雅楽法要 龍泉寺

音楽奉納 ジャズ ウィーピング・ウィローズ

講演・献句披講・入選披講

記念講話 「其角から紀逸へ」（仮題） 稲葉 有祐氏

記念公募 課題 事前投句（各2句吐・計12句）詳細裏面

川柳 「あまい」 松代 天鬼 選

十四字詩 「いくさ」 佐藤 美文 選

川柳 「景気」 西潟賢一郎 選

十四字 「けい」 （上下：「け」で始まり「い」で終わる11句） 酒井わさ美 選

滑稽俳句 「（テーマ・形式自由）」 八明庵一青 選

前句付 「運のよい事」 櫻木庵川柳 選

献句 慶紀逸翁への感謝の思いを一句にして。（記名・全句発表）

投句〆切 7月30日（土）消印有効。メールは同日24時まで有効。

当日課題 イメージ吟 （法要や音楽奉納、落語等を見ながらオンラインで投句。合点対象外。入選発表は会報）

各賞

合点（異種短詩の入選合計得点。特選5点、秀逸3点、佳作1点として計算）

第一位：5万円+川柳銀メダル 第二位：3万円 第三位：1万円

各題高点句に美景（特選・秀逸に記念品。合点10位まで表彰）

※行事は、奉納、講演、披講などインターネット中継にて配信します。参加者には、事前に視聴の招待コードをお送りいたします。

※中継を見られない方は、ホームページおよび発表誌をご確認ください。

※追加投句が出来ます。1組12句1000円とし、何組でも応募できます。

※応募組数によらず合点時同一作家として集計します。

※投句者は、別に献句1章をお寄せください。事前に短冊（記名）でお送り頂いた場合は、法要時に紀逸翁仏前にお供えし、行事後龍泉寺に奉納します。

投句・問合せ、その他は事務局まで

慶紀逸260年実行委員会事務局

住所：〒114-0005 東京都北区栄町38-1-2 TEL 03(3913)0075

メール：kijitu260@doctor-senryu.com

主催：慶紀逸260年実行委員会 川柳公論社

| 作者名 | 住所 〒 | | | | | |
|-----|--------------------|------|-------------|-------|----------|--------|
| 所属 | メール | | @ | | | |
| 献句 | 前句付 運のよい事 運のよい事 | 滑稽俳句 | 十四字 けい (上下) | 川柳 景気 | 十四字詩 いくさ | 川柳 あまい |
| | | | | | | |

「慶紀逸（けいきいつ）翁260年」とは：今年・令和4年は、川柳という文芸発祥にゆかりの深い慶紀逸翁没後260年の節目の年です。

川柳が単なる万句合興行に留まらず他の雑俳から分かれて文芸となったのは、慶紀逸編の『誹諧武玉川』が『誹風柳多留』の手本となり、さらには、句の見本として川柳作者の前にありました。慶紀逸翁なくして呉陵軒可有翁はなく、文芸としての川柳は無かつたかもしれません。

川柳という文芸にとつて恩人ともいえる慶紀逸翁は、俳諧史では、重く扱われてきませんでした。私ども川柳家先達は、『誹諧武玉川』と共に十四字も川柳家の嗜みとして楽しみ、慶紀逸翁も大切な存在として崇めてまいりました。

川柳の恩人・慶紀逸翁の顕彰を行うのが『慶紀逸翁260年』の行事です。

慶紀逸…本名を椎名件人といい、通称は兵蔵。元禄8年（1695）、幕府御用鋳物師・



椎名伊豫の次男として江戸・神田鍛冶町に生まれました。その鋳物師としての名は、椎名土佐といわれています。

若年の頃から父の旧友・立羽不角により五七五の道に入り、同じ頃から近隣の三田白峰の丈室に10年程朝夕に通つて雪中庵の正意を訪ね、添削を受け、俳諧の道を研鑽し、さらに正徳元年（1711）頃、稲津祇空の門を叩き、「硯田舎」の号を授かります。これは、道を究め宗匠としての資格を与えられたということですが、享保18年（1733）4月23日に師である祇空の臨終まで交流は続きました。

祇空が亡くなった同年、「初老」を前にして江戸座俳諧の異窓湖十（二世）に側つて江戸判者として立机し江戸座の宗匠として俳諧の道で生きる覚悟をしました。この後、『誹諧武玉川』などの高点句集を世に送り出すことにより宝暦期俳諧の第一人者として活躍することになります。宝暦3年（1753）、関口に庵をむすび、〈夜寒の碑〉を建立しました。これが後に〈関口芭蕉庵〉と呼ばれるようになりましたが、ここに芭蕉堂が建てられたのも慶紀逸が祇空を通じて芭蕉の玄孫弟子に当たるからです。宝暦12年（1762）5月8日、68歳で亡くなり谷中の日蓮宗龍泉寺に葬られました。

慶紀逸過去帳…今日も龍泉寺には、260年前の慶紀逸の過去帳が残されています。度重なる江戸の大火にも関東大震災、東京大空襲にも焼けずに残った貴重な史料です。その「宝暦十二年」の項には、慶紀逸の戒名が「自生庵紀逸日匠 五月八日 慶氏」とあります。



「龍泉寺過去帳」の「宝暦12年の項」【龍泉寺蔵】



慶紀逸〈夜寒の碑〉
【現・関口芭蕉庵】



『誹風柳多留』初篇



『誹諧武玉川』初篇

投句について

慶紀逸翁260年記念公募は、「川柳」だけでなく俳諧の短句から独立し、早くから川柳家にも親しまれている「十四字詩」、川柳という文芸の祖型である「前句付」、さらには、俳諧の発句（今日の俳句）から派生した「滑稽俳句」を並べて募集します。初めての方の作句にも支障の無いよう、少し解説を施しましょう。

【川柳】：俳句と同じ「575」十七音の定型詩です。ここでは課題吟ですので、課題を反映した作品をご応募ください。

【十四字詩】「十四字」：俳諧の短句すなわち「77」の形式の十四音の定型詩です。一題目の「いくさ」は、「戦」や「戦争」等をテーマに77の形式でよんでください。二題目の「けい」（上下）は、77の十四音の内、句頭が「けい」ではじまり句尾が「い」で終わる形式です。ただし、「けい」で始まる語は不可です。「十四字」とは雑俳の課題形式で正確には「十四字詩」と別です。け○○○○○○ ○○○○○い の要領で「○」に一音ずつ入れれば、一句が整います。これを「十四字の上下」といいます。

【滑稽俳句】：江戸時代には「滑稽発句」、明治期には「滑稽俳句」と称して通常の格式ばった発句や俳句に対して滑稽を中心によんだ俳句です。川柳も笑いの文芸ですが、アイロニーやシニカル、絶望の中の笑いといった人間が描かれます。滑稽俳句では、十七音を基本としますが、無季、自由律、分かち書き等内容や形式は自由です。明るい詩をお寄せください。

【前句付】：川柳という十七音の文芸の元になった「川柳評万句合」の形式です。77の前句を課題として、これに響き合う575の付句を作ります。ご存じの前句付には、
前句 切りたくもあり切りたくもなし
付句 盗人を捕えてみれば我が子なり
がありますね。これは、川柳よりも古い時代の作例ですが、初代川柳の時代には、「賑やかな事賑やかな事」など更に簡略化された前句が題として出されました。今回は「運のよいこと運のよいこと」の十四音にマッチする十七音の付句を作ってください。

合点について

4種類の課題をそれぞれの選者が選考（清記選：作者名を伏せて句だけにして選）し、特選を「5点」、秀逸を「3点」、佳作を1点として合計ポイントで競います。「十四字詩」、「川柳」、「滑稽俳句」、「前句付」という4種類の異種短詩を総合的に得点した者が優勝となります。

ただし、江戸期以来の伝統として各題2句、計12句を1組として、何組でも応募可とします。したがって幾組も応募すれば、数の力によってポイントを得ることも可能です。ぜひ、優勝を目指してください。